

【樹木の部屋】

ナニワイバラ（バラ科バラ属 Rosa laevigata）

和名：ナニワイバラ（浪速茨、難波茨）

別名：ナニワバラ（難波薔薇）、 ロサ・ラビガータ

英名：Cherokee Rose

バラ目 つる性低木

原産地：中国、台湾

花言葉：清純な愛、静かな愛と敬意

花色：白



← 写真-1 ナニワイバラ

撮影日：2020年05月08日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：Mさん



→ 写真-2 ナニワイバラ

撮影日：2020年05月08日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：Mさん

→ 写真-3 ナニワイバラの花
撮影日：2020年05月08日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：M さん



奈良市郊外の住宅地で見かけました。ナツツバキが咲いていると思いましたが、全体が枝垂れているようでした。ナツツバキの新種かな？と思い、近づいて見ると、どうも雰囲気が違う？
帰宅後、調べて見ると、つるバラの仲間ではナニワイバラでした。

つるバラの場合、フェンスやパーゴラに沿わせて育てる光景をよく見かけますが、立木のように育てている状態は、目にした記憶がありません。つる枝が、枝垂れ枝の状態を造っていました。

枝先に1個ずつ香りのよい大きな5弁の白い花を咲かせ、真ん中には黄色い雄蕊がたくさんあり、花には芳香があります。葉は3出複葉です。

日本へは江戸時代に大阪(難波)の植木商人が中国から輸入して広めたため、この名前が付いたそうです。園芸種として広まりましたが、地植えでよく育ち、病気や害虫にも強いため、西日本では自生しているところもあるそうです。

変種には花色が桃色のハトヤバラ(ハトヤイバラ)があります。ナニワイバラと性質はほとんど同じで、手入れ方法や仕立て方もナニワイバラと同じだそうです。

中国原産のナニワイバラ(*Rosa laevigata*)は1780年頃アメリカに伝わり、「チェロキー・ローズ=Cherokee Rose」と名付けられたそうで、アメリカ南部ジョージア州の州花となっています。

通年良く日に当て、風通しの良い場所で管理し、剪定は12～1月に、新梢を出来るだけ残し、3年以上の古い枝を、株元から切ります。葉が付いてない枝や、下向きの枝のほか、混みあいそうな余分な枝も、切り詰めるとよいそうです。

ノイバラ(野茨、学名：*Rosa multiflora*、日本原産)の花に似ていますが、ノイバラは小さめの花が円錐状に集まってつく円錐花序に対し、ナニワイバラは枝先に大きい花が単生します。

<ちょっと一言>

*バラは作出した年代や樹型、花型による分類があります。

*作出した年代による分類には、Wild Roses、Old Roses、

Old Roses～Hybrid Species、English Roses、Modern Roses があります。

・Wild Roses：原種、野生種、野バラとも呼ばれ、品種改良されていない野生の薔薇を指します。ナニワイバラやノイバラもWild Rosesに属しています。

- Old Roses : 一般的に、1867 年に作出された完全な四季咲き性のハイブリッド・ティー種「ラ・フランス」より以前の系統名を持つバラの総称です。
 - Old Roses～Hybrid Species: 原種を親として交配されたものの総称です。
 - English Roses : イギリスの育種家デビッド・オースチンによって作出されたオールド・ローズとモダン・ローズとを交配した新品種群です。
 - Modern Roses : 1867 年の「ラ・フランス」以降に作出された、新しい系統のバラの総称です。
- * 樹型によるものとしてはハイブリッド・ティー系、フロリバンダ系、ミニチュアローズ系、つるバラ系、スプレー系があります。
- * ナツツバキ : 夏椿、沙羅、学名 : *Stewartia pseudocamellia*
ツバキ科ナツツバキ属の落葉高木。別名はシャラノキ(娑羅樹)